



協働で生み出す身近な憩いと潤いの場

# 地域と創る 公園再整備事業

札幌市では、老朽化した身近な公園をリフレッシュする「地域と創る公園再整備事業」を行っています。この事業の特徴は、地域の人々と市と一緒に公園再生のアイデアを考え、それを実現させていくこと。今回は、この事業を通して生まれ変わった公園を紹介します。

●詳細 維持管理課公園緑化係 ☎ 681-4011

## 古くなった公園を リフレッシュ

手稲区には現在312カ所の「都市公園」があります。公園と一口に言っても、前田森林公園のような大きな公園から住宅街の小さな公園まで、その機能はさまざま。一番数が多いのは、身近な生活圏にある「街区公園」です。

街区公園は、かつて「児童公園」と呼ばれ、子ども向けに造成されてきました。しかし、少子高齢化などの環境の変化もあり、地域の実情と合わない公園が出てきました。

市では、そのような公園を地域の人々と共に再整備する「地域と創る公園再整備事業」を実施。この事業の前身の「個性あふれる公園整備事業」も含めると、区内では37の公園が再生されました。

完成した公園は、地域の特性に合い誰もが使いやすいものになっています。これらの公園はどのように造られていったのでしょうか。

## 暗い雰囲気 公園を変えたい

西宮の沢やまびこ公園（西宮の沢4条4丁目）は、閑静

な住宅地の中にある小さな公園です。「公園を再整備したおかげで、地域の雰囲気が明るくなった」と近隣に住む石墨国夫さんは話します。

この公園ができたのは、昭和55年。宅地造成された住宅地で、子育て世帯が多数住んでいました。そんな地域性を反映して、大きな砂場と高さのある滑り台が設置され、ニセアカシアやヤエザクラなどさまざまな樹木で公園が縁取られていました。

公園再整備の話が持ち上がったのは、平成23年。造られてから約30年の間に、公園の樹木は成長し、光をさえぎるほど枝葉が生い茂っていました。遊具も老朽化し、公園は暗い雰囲気に包まれ、立ち寄る人の姿を見ることがも少なかったそうです。

公園再整備の意見交換会の



▲改修前の西宮の沢やまびこ公園。